

## 太平洋赤道域におけるピコ植物プランクトン個体群の不均一分布について

## Spatial heterogeneity of picophytoplankton populations in the equatorial Pacific

# 松本 和彦[1], 河野 健[2]

# Kazuhiko Matsumoto[1], Takeshi Kawano[2]

[1] 海洋科学技術センター, [2] 海洋科学技術センター海洋観測研究部

[1] JAMSTEC, [2] Ocean Res. Dept., JAMSTEC

<http://www.jamstec.go.jp/>

我々は太平洋赤道域の暖水域から湧昇域にかけて植物プランクトンに関する観測を実施し、東経 145 度～西経 160 度の赤道域における植物プランクトンの分布は均一ではない様子を捉えた。特に、現場海域の植物プランクトン現存量の大部分を占めるピコ植物プランクトンは、海中環境の違いに応じて分布域を違えている事がフローサイトメーターを用いた分析により明らかとなった。水温と栄養塩濃度から赤道域を暖水域、湧昇域及びその間のフロント域に大別すると、ピコ植物プランクトンの内、暖水域では原核緑藻類、フロント域ではらん藻類、そして湧昇域では真核ピコ植物プランクトンの増殖が顕著だった。これらの分布域の違いには、光や栄養塩といった増殖の制限因子となる海中環境に対する適応能力の違いが大きく起因していると考えられた。